

注目! まちの話題



新4号国道沿いを清掃
コミュニティ団体が掃

1月22日、新4号国道バイパスに隣接する5つの地区コミュニティ団体が合同で、「クリーン作戦」を実施しました。以前は三和地区の2団体で行われていた清掃活動が、昨年から拡充。住民同士が力を合わせ、きれいな街づくりに取り組む清掃活動を展開しています。

新4号国道バイパスの側道など上下線約22キロメートルの清掃には、5団体・約500人が参加。参加した小学生は「ポイ捨ては許せない」と、きれいな道路になるよう願っていました。



▲側道には、空き缶やペットボトル、コンビニ袋に入った弁当の空き箱などが散乱。袋いっぱいゴミが集められました



川戸台遺跡の意義に迫る
～歴史シンポジウムを開催～



▲各専門家が研究成果を報告。約300人が繁栄の時代に思いを馳せながら耳を傾けていました

1月29日、古河市歴史シンポジウム実行委員会主催の「古河川戸台遺跡をめぐる諸問題」が、スペースU古河で開催されました。

このシンポジウムは、古河公方公園(古河総合公園)の西側に広がる市指定史跡「川戸台遺跡」の紹介をはじめ、歴史的な位置づけや価値について、さまざまな視点から議論・研究を行い、理解を深めるものです。

大規模な製鉄・鋳造所として栄えた川戸台遺跡。「かけがえのない市民の宝物」として、保存・整備とともに、古代人の生活を解明する手掛かりとなることが期待されます。



2月7日は「ふなの日」です
～伝統の食文化を伝えるために～



▲鮎甘露煮を受け取った須田さんは「明日の朝食でおいしくいただきます」と笑顔いっぱいでした

「ふなの日」である2月7日、古河鮎甘露煮組合が市内の特別養護老人ホーム8施設に、鮎甘露煮570人分と感染症予防のマスク4,000枚を贈呈しました。

今回で8回目の贈呈式。200年以上続く古河伝統の食文化である鮎甘露煮を多くの人に知ってもらい、後世に伝えていくために、古河鮎甘露煮組合が行っている社会貢献活動です。

10時間以上煮た甘露煮は、カルシウムたっぷり骨まで柔らかく食べられます。この機会に健康的な郷土食を味わってみませんか。